

平成20年度「幼稚園・保育所における食育実施状況アンケート」結果

1. アンケートの目的

大阪府内の幼稚園・保育所における平成19年度の食育実施状況を把握するとともに、平成18年度から3年間幼児を重点対象として実施した食育推進プロジェクト事業の評価を行い、今後の事業推進に活用する。

2. 対象及び客体数

大阪府14保健所において管内の幼稚園445施設、保育所611施設に配付し、回収した。幼稚園435施設、保育所594施設から回答を得た。(回収率97.4%)

3. 食育実施状況

平成19年度の食育実施率は幼稚園89.9%、保育所99.0%で保育所のほうが高かった。(表1、図1)平成17年度以降の推移をみると、幼稚園・保育所ともに実施率が増加傾向にあり、取組みが広がった。(図2) 年齢別実施状況は図3のとおり。

表1 食育実施状況(施設数)

	実施	未実施	総計
幼稚園	391	44	435
保育所	588	6	594
総計	979	50	1029

図2

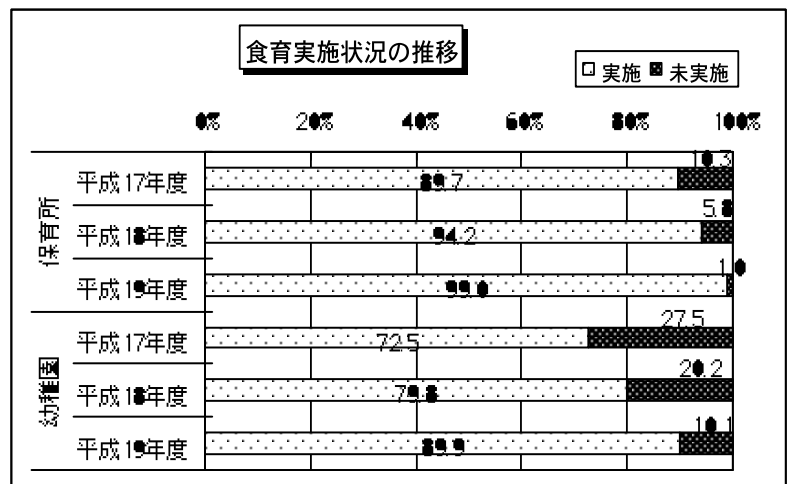


図1

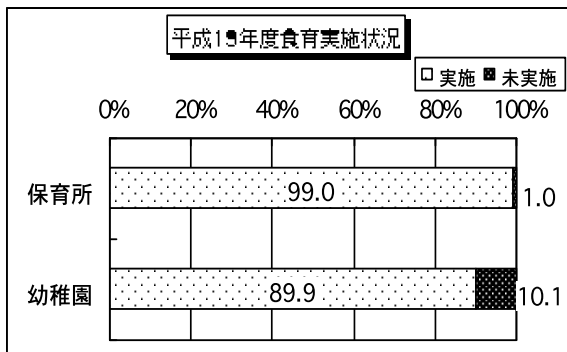
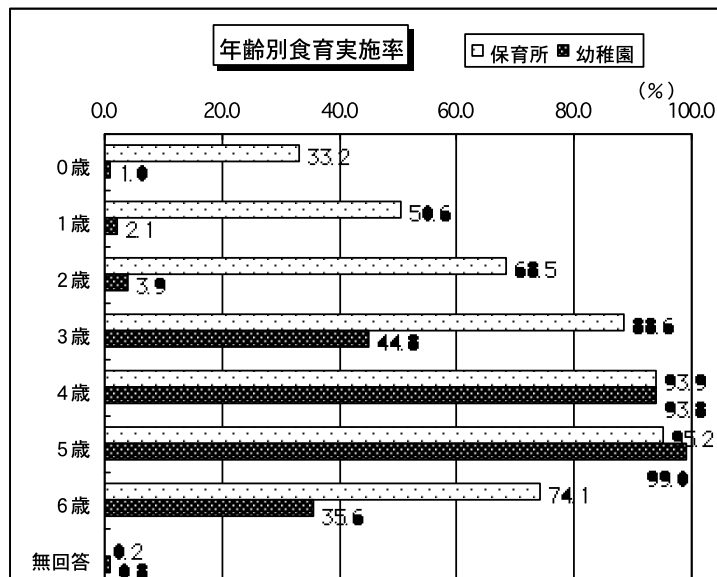


図3



4. 食育を実施している幼稚園・保育所の具体的な状況

(1) 実施回数と年間合計指導時間数

平成19年度に食育を実施した施設の年間実施回数は、幼稚園・保育所ともに「1～10回」と回答した施設が多かった。(表2)

無回答施設を除いて平成17年度からの推移をみると、保育所では年間11回以上実施する施設の割合が徐々に高くなり、19年度には「1～10回」を上回った。一方、幼稚園は大きな変化がみられなかった。(図4, 5)

表2 年間実施回数(施設数)

	1～10回	11～20回	21～30回	31～40回	41～50回	51～100回	101～150回	151回以上	無回答	総計
幼稚園	275	34	8	2	2	7	17	24	22	391
保育所	254	123	48	11	12	19	27	60	34	588
総計	529	157	56	13	14	26	44	84	56	979

図4

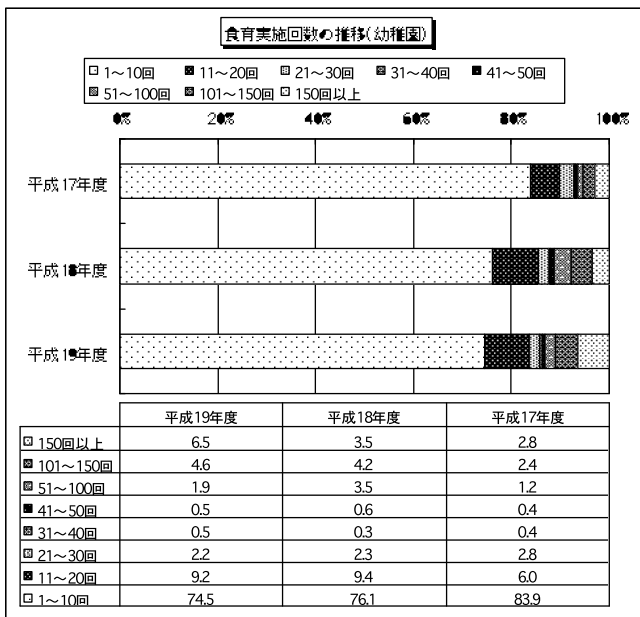
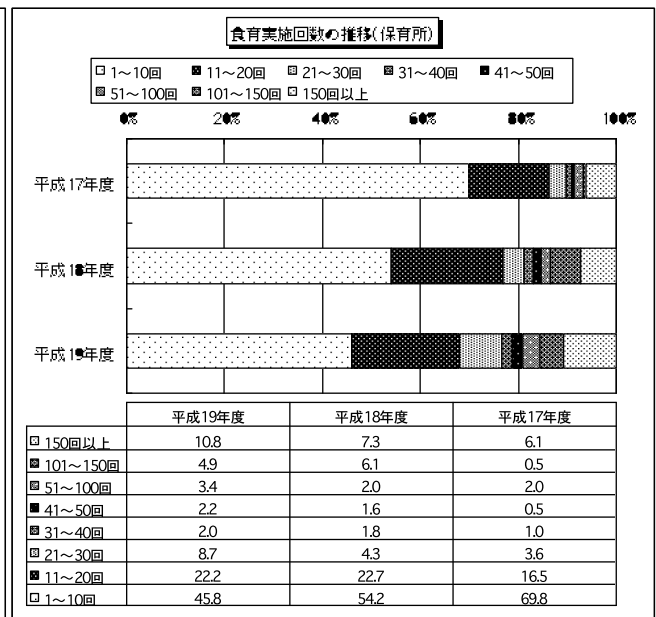


図5



年間実施回数と1回あたりの指導時間数から算出した「年間合計指導時間数」は、幼稚園・保育所ともに「316分以上」と回答した施設が多かった。(表3)

算出不可の施設を除いて平成17年度からの推移をみると、保育所では「316分以上」実施する施設の割合が徐々に高くなり、平成19年度には56.7%に達した。幼稚園でも年間合計指導時間数が増えつつあるが、保育所ほどの伸びは見られなかったことから、指導時間の確保が進みにくいことが伺える。(図6, 7)

表3 年間合計指導時間数(施設数)

	45分未満	45分	46～90分	91～135分	136～180分	181～225分	226～270分	271～315分	316分以上	算出不可	総計
幼稚園	54	7	80	30	40	16	11	21	96	36	391
保育所	20	8	54	33	35	24	35	22	302	55	588
総計	74	15	134	63	75	40	46	43	398	91	979

図 6

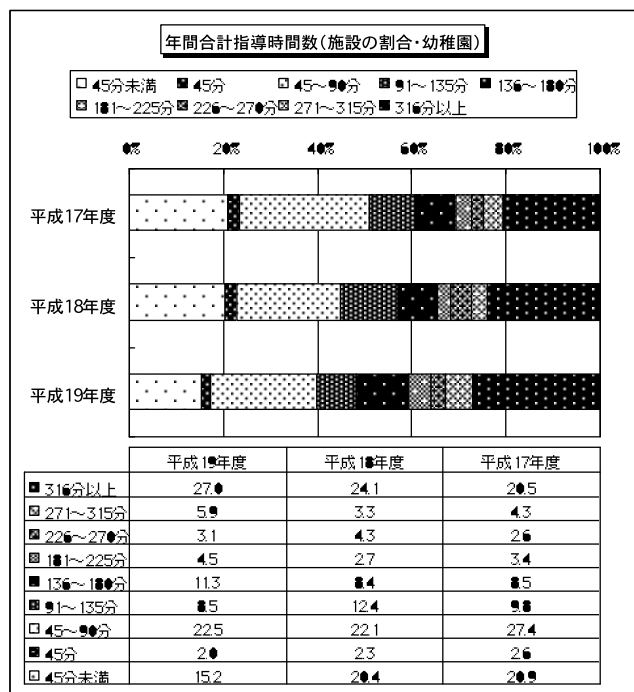
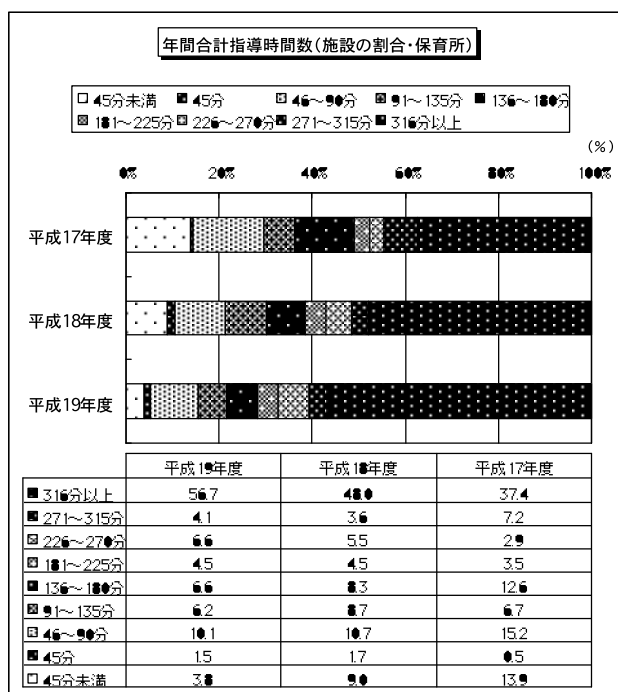


図 7



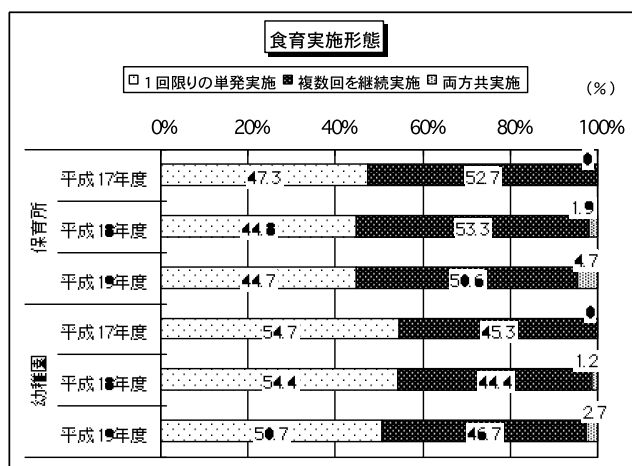
(2) 実施形態と食育計画作成状況

実施形態は幼稚園・保育所ともに「1回限りの単発実施」「複数回を継続実施」がほぼ半々。無回答の施設を除いて平成17年度以降の推移をみると、あまり変化がなく同傾向が続いている。(表4, 図8)

表4 実施形態 (施設数)

	1回限りの単発実施	複数回を継続実施	両方共実施	無回答	総計
幼稚園	191	176	10	14	391
保育所	257	291	27	13	588
総計	448	467	37	27	979

図 8

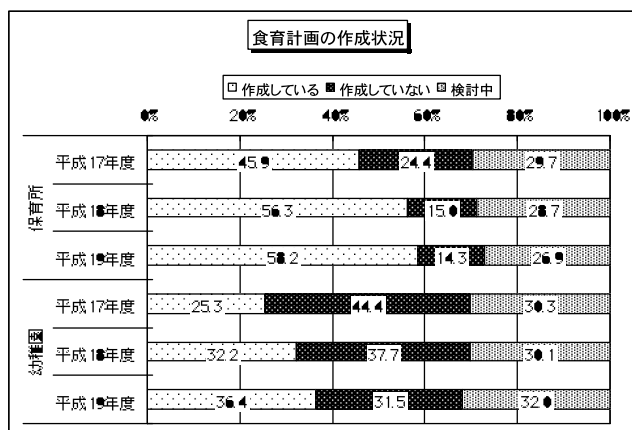


食育計画作成状況は「作成している」が幼稚園36.4%、保育所58.2%。無回答の施設を除いて平成17年度以降の推移をみると、幼稚園・保育所ともに「作成している」施設の割合が徐々に高くなっているが「作成していない」「検討中」の施設が依然多い。しかし今後は、新学習指導要領(平成21年4月文部科学省)、改正保育指針(平成20年3月厚生労働省)により作成する施設が増えると思われる。(表5, 図9)

表5 計画作成状況 (施設数)

	作成している	作成していない	検討中	無回答	総計
幼稚園	141	122	124	4	391
保育所	342	84	158	4	588
総計	483	206	282	8	979

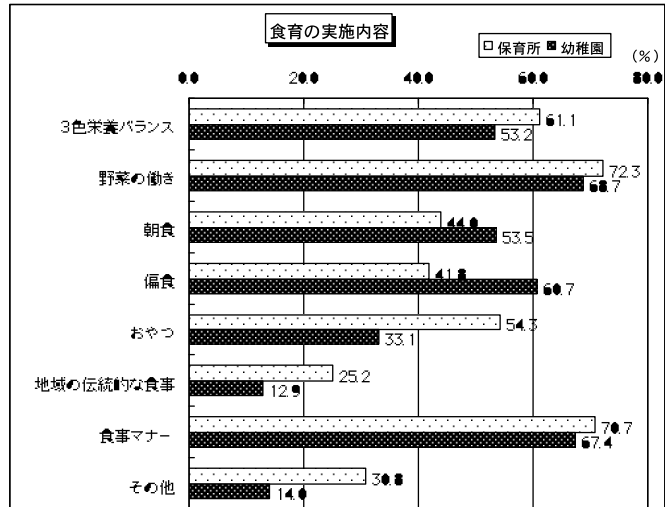
図 9



(3) 実施内容と方法

無回答の施設を除いて内容別に実施割合をみると、幼稚園では「野菜の働き」68.7%、「食事マナー」67.4%、「偏食」60.7%の順に多く、保育所では「野菜の働き」72.3%、「食事マナー」70.7%、「3色栄養バランス」61.1%の順に多かった。「地域の伝統的な食事」については幼稚園 12.9%、保育所 25.2%といずれも最も低かった。(図10)

図10



平成17年度以降の推移をみると、「野菜の働き」に取り組む施設が保育所では増えつつある。「朝食」は保育所・幼稚園いずれも伸びていないが、幼児期は朝食欠食率が低いことから、他の内容を優先していると思われる。(図11, 12)

図11

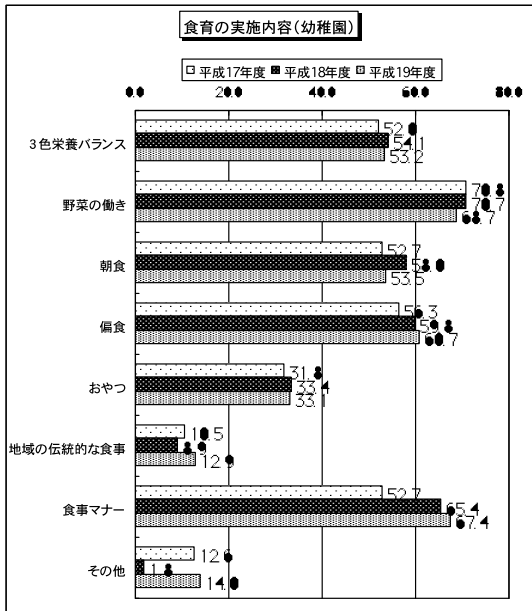
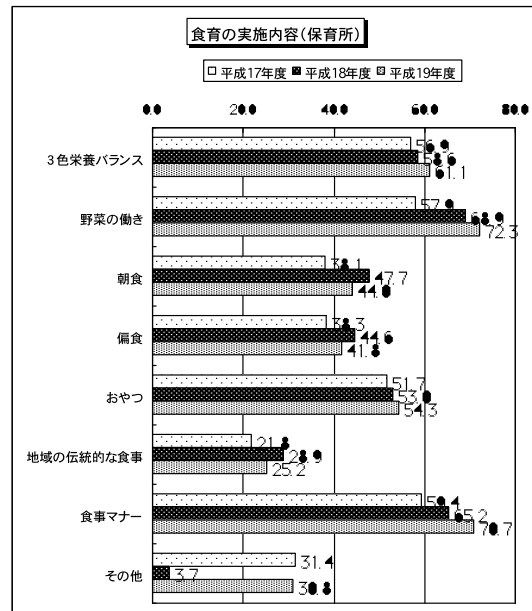


図12



無回答の施設を除いて方法別の実施割合をみると、幼稚園は「お話」78.9%、「飼育・栽培体験」69.4%、「一緒に食事」65.8%の順に多く、保育所は「飼育・栽培体験」85.8%、「調理体験」85.3%、「お話」77.8%の順に多かった。「調理体験」は幼稚園と保育所で差が大きかった。(図13)

図13

平成17年度以降の推移をみると、全体的に実施割合が伸びており、食育実施率の伸びに伴い内容・方法ともに充実しつつある。(図14, 15)

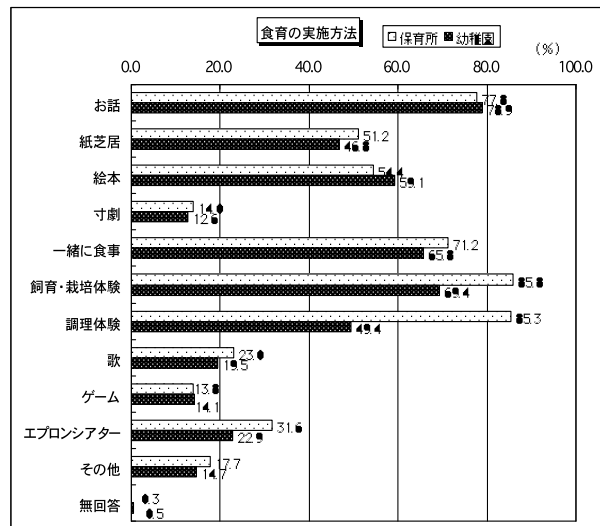


図 1 4

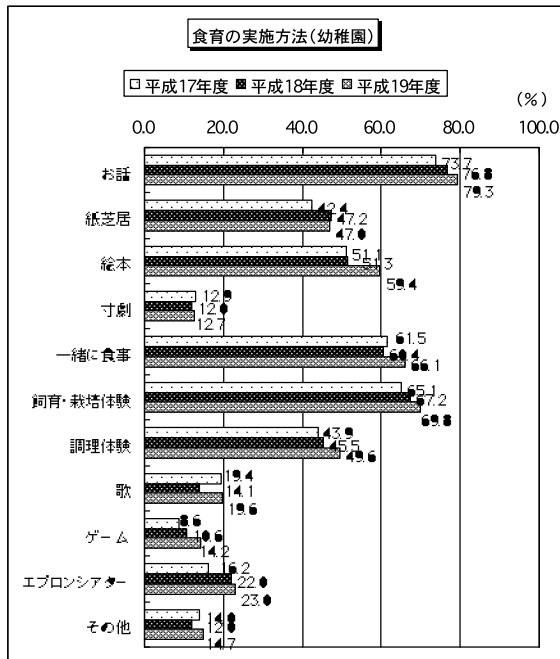
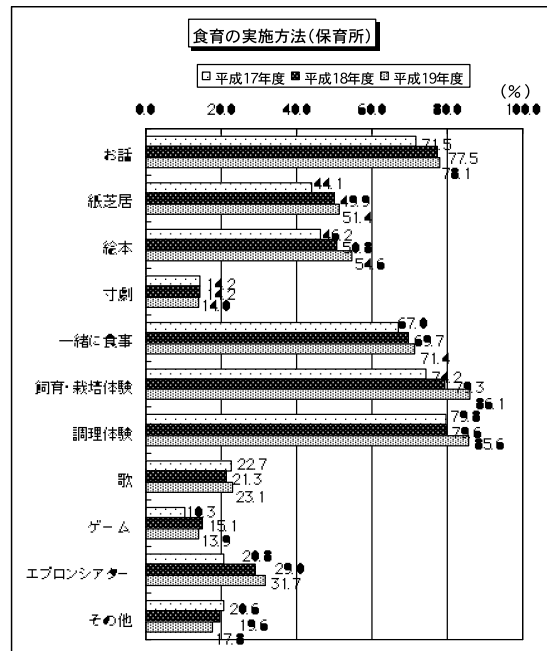


図 1 5



(4) 実施者

無回答の施設を除いて食育実施者の割合をみると、幼稚園・保育所とも「担任教諭・保育士」が最も多く保育所 95.9%、幼稚園 89.7%。(図 1 6)

平成 17 年度以降の推移をみると、ほとんど傾向は変わらない。府保健所は各施設が日常保育の中で食育を実践できるよう支援してきたが、園児と接する機会が一番多い担任教諭や保育士による実施が定着するよう、今後も側面的支援を行う必要がある。(図 1 7, 1 8)

図 1 6

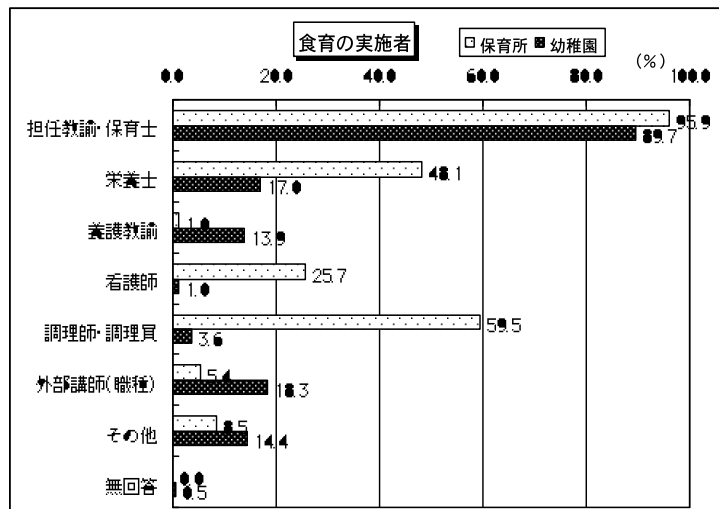


図 1 7

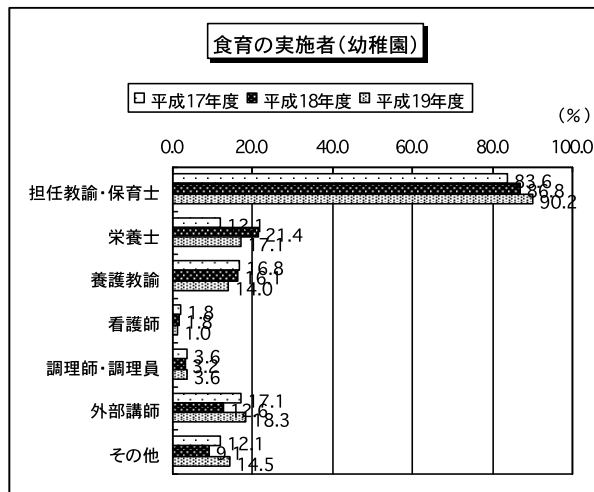
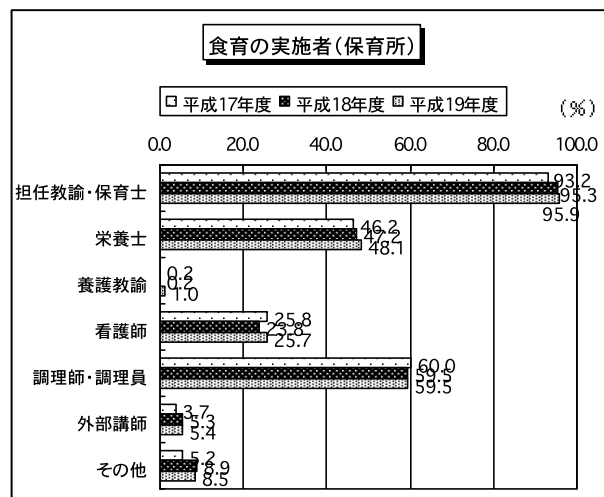


図 1 8



5. 保護者への啓発

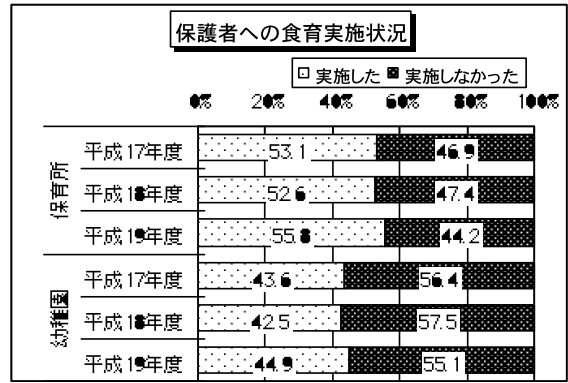
保護者への取組みは、幼稚園で半数近く、保育所では半数以上が行っていた。

無回答施設を除いて平成 17 年度以降の推移をみてもあまり大きな変化はみられなかった。(表 6、図 19)

表 6 保護者への啓発実施状況 (施設数)

	実施	未実施	無回答	総計
幼稚園	192	236	7	435
保育所	329	261	4	594
総計	521	497	11	1029

図 19



6. 平成20年度の食育実施予定

アンケート実施時点での平成20年度食育実施予定は表7のとおり。

表 7 食育実施予定 (施設数)

	実施する	実施しない	無回答	総計
幼稚園	394	34	7	435
保育所	587	4	3	594
総計	981	38	10	1029

7. 外部への支援希望状況

保健所等外部への支援希望内容は、幼稚園は「健康情報・知識の提供」65.1%、「教材の貸し出し」59.6%、「講師の紹介」48.2%の順に多く、保育所は「健康情報・知識の提供」71.1%、「教材の貸し出し」65.4%、「指導者研修会の開催」47.5%の順に多かった。(図 20)

図 20

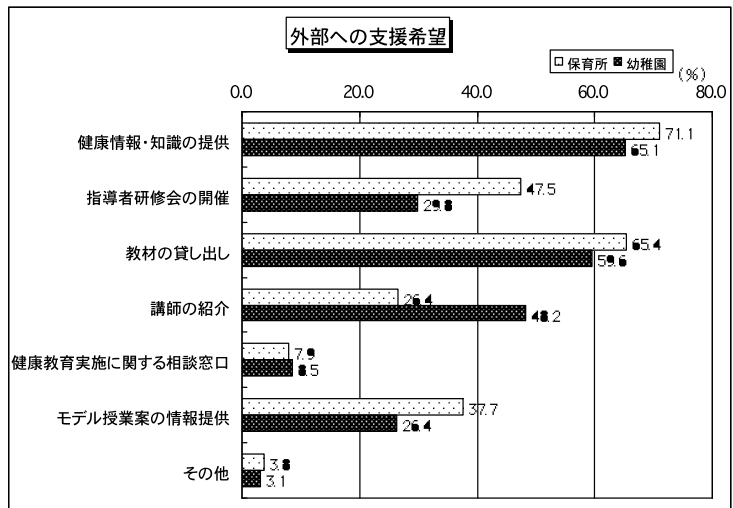
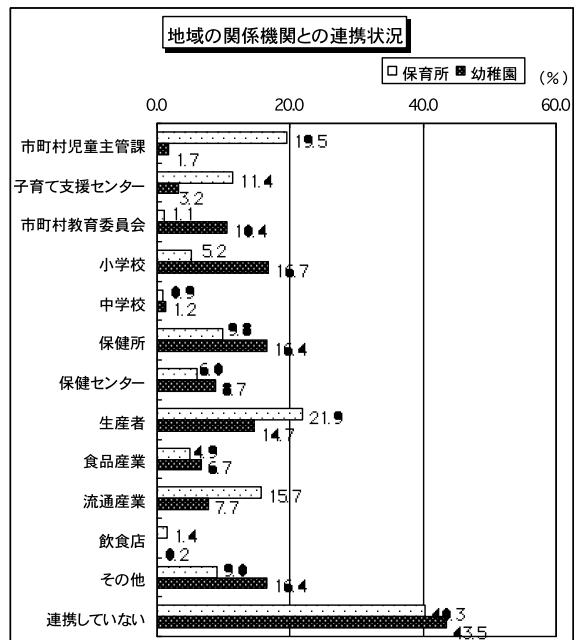


図 21

8. 関係機関との連携状況

食育を実施するにあたり地域の関係機関との連携状況についてみると、幼稚園は「小学校」16.7%、「保健所」16.4%、「生産者」14.7%の順に多く、保育所は「生産者」21.9%、「市町村児童主管課」19.5%、「流通産業」15.7%の順に多い。(図 21)



無回答施設を除いて平成17年度以降の推移をみると、幼稚園は「小学校」「生産者」「食品産業」「流通産業」の割合が増加傾向で、保育所は「連携していない」施設の割合が徐々に減り「生産者」「流通産業」が増加傾向と、それぞれ連携が進みつつあると思われる。

(図2 2, 2 3)

図 2 2

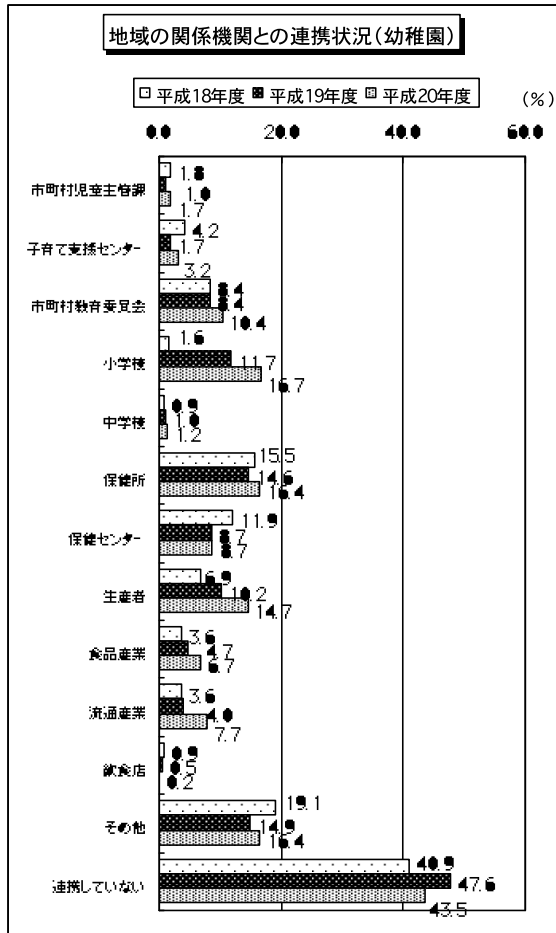
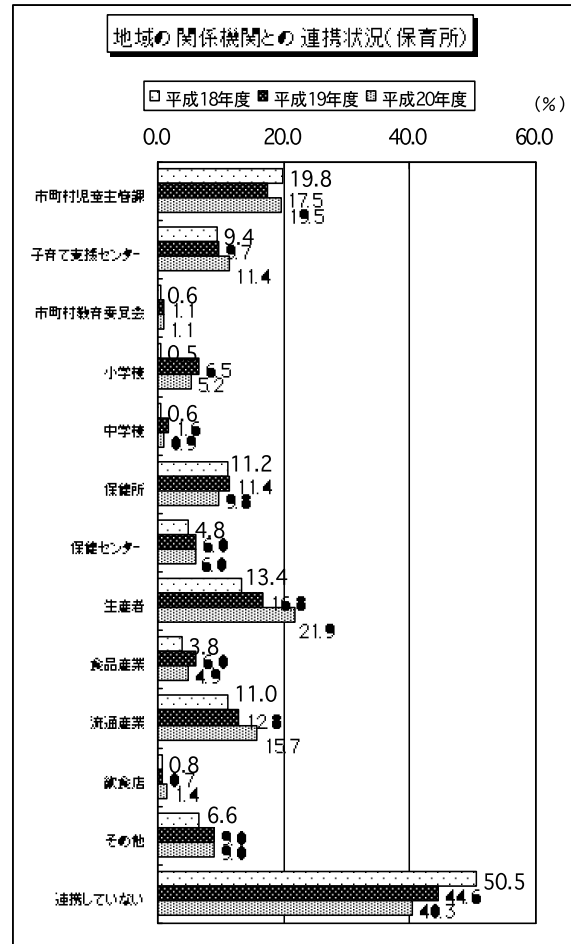


図 2 3



9. まとめ

3年間の推進により園教諭や保育士による園児への食育は定着が図られた。本プロジェクト開始当初推進した小学校における実施へ繋がり、幼児期以降の連動性ある食育が期待できる。

今後は健康栄養情報の提供を継続するとともに、幼稚園の新学習指導要領(H21.4 文部科学省)ならびに改正保育指針(H20.3 厚生労働省)に鑑み、各施設の計画的実施や内容の充実および保護者への取り組み推進等へ、地域の実状に合わせて保健所が側面的支援を行っていききたい。